



一般社団法人 富山県作業療法士会 ニュース

令和7年度 No.3 第147号 令和7年2月1日

発行 一般社団法人
富山県作業療法士会
会長 齋藤 洋平
印刷 (株) チューエツ

富山県作業療法士会ホームページ<https://toyama-ot.org/> 富山県作業療法士会会員数：686人

東海北陸リーダー養成研修会 所感

運営委員長 吉原 有佐

昨年11月23日に行われた第10回東海北陸リーダー養成研修会が終了した直後、ふとある言葉思い出しました。

「長生きする者は多くを知る、旅をする者はそれ以上を知る」

ことわざか何かだったと思いますがうろ覚えです。生粋のインドア派を自認する人間が旅を語るなど見当違いですが、そんな私でさえ、たまに旅をすることによって受けるインパクトは少なくないと感じます。普段気にしていることが些細に感じられたり、考えもしなかった着想を得たり、新たな希望を見出したり。非日常における未知との遭遇は、私たちにまさに「新しい目」を授けてくれるのではないかという気がします。

今回のテーマは「魅力ある県士会づくり」。組織率の低下や業務の一極集中など、県士会活動を取り巻く厳しい現状を打開すべく、國學院大学経済学部教授の尾田基先生にご講義をいただき、東海北陸7県の精鋭35名の方にご参加いただきました。

尾田先生の講義では「魅力ある県士会作りを目指し、会員に働きかける手法を探る」と題し、この紙面では語り尽くせないほど濃厚な講義をいただきました。中でも、一から何かを変えようとする大きな「変革」よりも思考の転換によって取り組み方を変えていく「拡張」に有効なヒントがあるように感じました。

県士会紹介では、各県での特徴ある取り組みを紹介していただきましたが、三者三様ならぬ七者七様、実にバラエティに富んだ内容でした。中でも、低額な会費での運営を可能にしている県士会

の紹介の際には、驚嘆と悲嘆の声が少なからず聞かれました。

グループディスカッションでは、尾田先生の講義内容を受けて「魅力ある県士会作りプロジェクトの立案」に取り組んでいただきました。さながらスピード感あふれる空中戦といった様相を呈し、次々と書き上げられていくワークシートをただ眺めているしかないといった状況が繰り広げられました。完成したプロジェクトはどれも新規性が高く具体的で実現可能なものばかりだったと思います。

私たちの専門とは異なる領域の知見を得て、他の土地の他の考え方に触れる。初対面でも傑作を生み出すことができる。世界は広く、知らないことがまだまだたくさんある。これはまさにアレですね。

さて、今年はどこへ行こうかな。

最後に、このような素晴らしい研修会を開催できたのは、ひとえに運営委員のみなさんのご尽力によるものと確信しております。この場をお借りして感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。





第17回JIMTEF 災害医療研修 ベーシックコースを通じて得た学び

ソフィアメディ訪問看護ステーション射水
砂道 雄太

能登半島地震を契機に参加したJIMTEFの研修では、災害医療における作業療法士の役割を深く学ぶ貴重な機会を得ました。この研修では、限られたリソースの中で命を救うトリアージ、多職種連携の重要性、被災者に寄り添う支援の在り方について具体的な知識を習得しました。

特にCSCATTT（指揮、情報伝達、安全確認、評価、トリアージ、治療、搬送）の体系的アプローチは、混乱を抑え迅速な対応を可能にする重要なフレームワークであると実感しました。

能登半島地震の被災地では、高齢者や障がい者などの災害弱者への支援が課題となり、避難所生活での健康被害が多く報告されました。この課題を踏まえ、研修では「生活機能維持」の視点が強調され、被災者が身体的・精神的に自立した生活を送るためのリハビリテーションの必要性を学びました。この視点は、作業療法士として被災者一人ひとりに寄り添ったケアを提供するうえで欠かせないものだと感じました。

さらに、災害時の精神的ケアの重要性も学び、心理的応急処置（PFA）の手法を取り入れることで被災者の安心感を高め、不安を軽減する支援方法を実践的に習得しました。地震の心理的影響の大きさを再認識するとともに、共感を持って話を

聞き、安心感を提供する姿勢の重要性を学び、日常業務にも活かせると感じました。

また、能登半島地震での支援活動を振り返る中で、多職種連携の必要性を強く実感しました。地震後の支援活動では、医師や看護師、行政職員、地域住民などとの連携が迅速で効果的な対応を実現する鍵となりました。研修では平時から多職種間で情報共有や訓練を行い、災害時に備える重要性が繰り返し強調されました。

この研修で得た知識と経験を活かし、地域社会との信頼関係を築き、多職種連携体制を整えることで、災害時の被害を最小限に抑える基盤を作り上げていきたいと考えています。災害に備えた専門性を高め、必要な場面での確に行動できる作業療法士として成長していきたいと強く感じました。



「精神科×MTDLP どうすれば活用できる？」 に参加して

谷野呉山病院 宮田 優夏

令和6年12月11日に開催された、精神障害部会の研修会に参加させて頂きました。研修のテーマは、「精神科×MTDLP どうすれば活用できる？」で、講師は、地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センターの南庄一郎先生でした。

MTDLPは、臨床では使えていない、精神分野で使うのは難しいという声をよく聞き、私自身もシートの記入項目が多く時間が掛かるので、臨床での活用に至っておらず、今回のテーマに興味を持ちました。

講義では、基本事項の再確認から、精神科におけるMTDLP活用のポイント、事例を用いてシートの書き方について解説をして頂きました。精神科でMTDLPを活用するためのポイントですが、対象は、今後の退院やリワーク、就労移行など、何らかの「動き」がある方で、目標がはっきりしていると用いやすいようです。また、自分が多職種チームの一員として支援に参画出来ている方で、

対象者に関わる職種が多ければ多いほど、MTDLPの特性が活かされ、向いているとのことでした。活用に向けてのプロセスでは、パラレルOTや隙間時間に工夫して個別に対象者に関わる機会を作り、その中で、対象者固有で興味深い目標を設定する、活動・参加を意識した院内外でADL、IADL訓練を行う、ケアチームに参画する、対象者の家族と積極的にコンタクトをとることがポイントとして挙げられていました。

私は日々の業務では長期入院の病棟作業療法のみで、動きの少ない方と関わる事が多いです。臨床で活用するのであれば、マネジメントシートを作ることで十分か、ということや、困っているケースをまとめて、多職種とコミュニケーションをとるきっかけにするという活用方法のお話もあり、まずは関わりに困っている対象者の問題点や強みの整理、関わりの見直しに活用してみようと思いました。



富山県3士会合同研修に参加して

白光苑デイサービスセンター 伊東 英司

今年度の富山県リハビリテーション専門職団体協議会主催「富山県3士会合同研修会地域ケア会議編（9月29日）」に参加しました。今回の研修はオンライン形式ではなく、対面形式でした。私としては約4年ぶりの対面の研修の参加となりました。

研修は株式会社アトラックの佐藤孝臣先生（日本作業療法士会理事）の講義とグループワークが行われました。地域ケア会議は、主催の市町村職員と、医師、薬剤師、リハビリ専門職、地域包括支援センター（保健師、社会福祉士、主任ケアマネ）が出席し、要支援、要介護者の課題解決に向けて専門職が知恵を持ち寄る場です。私は実際の地域ケア会議には2回参加しており、その都度、OTとして十分に助言できているか、足りない部分はどこだろうと、会議後のフィードバックが無い為、悩むことがありました。また、生活作業療法委員会の富山地区の勉強会では、実際に地域ケア会議に参加した委員から助言する際の注意点や、OTとしてどのような視点で助言するかなどの勉強会を行っていましたが、より深く勉強したいと思い、今回の地域ケア会議編の研修に参加しました。

佐藤先生の講義では、失敗しないケア会議にする為に、自立を阻む生活課題を明確にする、質問ではなく助言を意識する、難しいことを簡単に説明する、活動から参加を意識した助言を行うことを学びました。事例提供者からリハビリ専門職へのよくあるクレームとして「話が長い、上から目線」とのことで、このようなクレームが出ないように注意して発言しなければならないと思いまし



た。地域ケア会議の事例対象として多い要支援の人はIADLの低下が主であり、早期対応が重度化の予防になることから、IADLの低下にアプローチすることが非常に重要であることが分かりました。

グループワークでは実際の地域ケア同様に事例に対し、PT、OT、STが各々の専門的な視点から、様々な助言を出しました。PTやSTの助言は新たな専門知識の習得になり、また、専門職が知恵を出すことで、生活課題の解決する糸口になることがよく分かりました。

この研修後、地域ケア会議に参加することがあり、研修で学んだことを生かすことができました。研修では知識だけでなくグループワークを行うことで、実際の地域ケア会議にて、どのような助言をすればいいのかとても勉強になりました。

今後もこのような研修に参加し、個別課題そして地域課題を解決できるように勉強していきたいと思います。



令和6年度 災害情報伝達訓練結果報告

災害リハビリテーション委員会 アルカディア氷見 高林 一彦

会員の皆様には、災害情報伝達訓練（以下、災害訓練と略す）に毎年協力していただき、大変感謝しております。

今年度の災害訓練は、9月25日（月）午前11時に災害発生をメーリングリスト（以下MLと略す）にて会員へ発信。30日の午後7時をもって情報収集を締め切っており、例年より4日間期間を延長して行いました。

また、情報集計のスムーズ化と安否確認数の向上を目的にGoogleフォームの入力形式を変更。会員個人の皆様にはご自宅の被害状況を入力していただき、病院・施設代表者の皆様には、職場の被害状況及び士会員の安否確認情報をフォームに入力していただく方法に変更して実施しました。

結果は、総会員682名中、254名（会員全体37%）の方々から連絡を受けました。病院施設代表者の方々からは、109病院・施設（全病院・施設の59%）から連絡をいただきました。安否確認数は、469名と例年の2倍の数の安否を確認することができました。（推定ではありますが、非会員のOTの数も一部含まれているのではないかと想定されます。）

近年の災害訓練の結果を踏まえますと会員個人の連絡率は、毎年上昇はしていますがほぼ横ばい

で推移しており、連絡率の大きな上昇は、非常に難しい現状にあります。

しかし、各病院・施設代表者からの連絡に関しましては、より一層の協力をお願いすることで、まだまだ改善の余地があると考えております。次年度は連絡のない病院・施設には、委員会から確認を入れるようにすることで会員の大部分の安否が確認できるようになるのではないかと期待しております。

大規模災害が発生した際には、OT協会と各都道府県OT士会が協力して会員の安否・被害状況を確認し、必要となる物的・人的支援を行います。そこで最も重要になってくるのが、迅速な会員の安否・被害状況の把握と協会との情報共有となります。

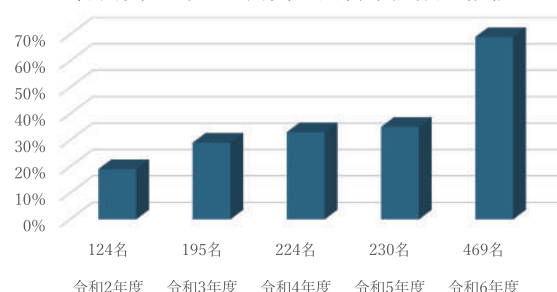
若い会員の方には「連絡したからといって何かしてくれるの？」という声も聞かれるでしょう。確かに個々人の会員に直接大きな恩恵がないかもしれませんが、日本作業療法士会や各都道府県士会など大きな団体が協力して動くことで大きな支援を生み、そこで多くの人が救われることも理解していただきたいと思います。

来年度もご協力よろしくお願いたします。

令和6年度 災害時情報伝達訓練 連絡状況

令和6年9月現在	総数	連絡数	安否確認数
会員個人	682名	254名 (37%)	—
自宅会員	36名	6名 (17%)	6名
病院・施設（代表者）	186件	109件 (59%)	463名
総安否確認数	—	—	469名

総会員に対する会員の安否確認数の推移



施設紹介

富山城南病院 塚田 大紀

当院は、昭和55年に「富山城南病院」として開設後、長年、長期療養型の病院として、地域の慢性期医療を担ってきました。平成7年には、病院敷地内にて温泉を掘削し、名称が「富山城南温泉病院」となりましたが、病院施設の老朽化に伴い、令和6年3月、現在の場所に「富山城南病院」として新規開設しました。建物は4階建てで、2・3階には医療療養病床166床と外来透析70床があり、4階には54床の介護医療院とリハビリ室が併設され、1階には、短時間リハビリに特化した通所リハビリ施設「城南通所リハビリセンター」を新規開設しています。別棟にも介護医療院「城南内科介護医療院」を新規開設し、もともとある同法人の老健2施設や、同グループ法人の特養などの施設と連携しながら運営を行っています。外来は、内科・歯科があるほか、透析では、70台の人工透析監視装置を有し、透析医学会認定の専門医による通院・入院治療にも力を入れ、放射線専門医による血管内治療も手がけています。

当院のリハビリスタッフは、理学療法士が5名、作業療法士が2名在籍しており、急性期、回復期病院等から転院される患者様が多く、退院に向けた継続的なリハビリの方もおられますが、主に維持・生活期のリハビリを行っています。透析を継続しながら、病院でのリハビリを希望し転院するという方、ターミナル期の重症

の方等もおられ、安楽に過ごすためのポジショニングや、離床し意味のある作業に取り組む、QOLの向上に資することも行っており、リハビリ室横にある屋上ベランダはとても眺望が良く、日光浴に出るととても喜ばれています。

先に述べた通所リハビリには、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれ1名ずつが在籍し、訪問リハビリのほか、富山市委託事業である運動器の機能向上訓練事業も実施しています。比較的、軽度者の方のご利用が多く、パワリハやレッドコード等を使った運動、個別訓練や作業、脳トレ等を行い、その他に、地域包括支援センター等からの依頼で介護予防教室にも出向き、これらも含め当院の活動が地域の高齢者を支える一助となれればと考えております。最後に、新型コロナウイルス流行以前は、病院での健康講座等の啓発活動を行っていましたが、ここ数年は、それが難しく、地域の公民館等へ出向いての介護予防教室等のみとなっていました。今年に入り、新型コロナウイルスの分類が5類と変わり、また、新病院、通所リハビリ開設を機に、通所リハビリにて、地域向けの公開講座を行いました。今後も、このような活動を行いながら、地域に貢献できる病院となれるよう、より一層努力していきたいと考えています。



会員リレーコラム



富山県リハビリテーション病院
・こども支援センター

坂井 亜伽里

県士会の皆さまこんにちは。同じ高校の同級生である田口鼓太郎さんからバトンを受け継ぎ、今回のコラムを担当させていただきます。富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの坂井亜伽里と申します。作業療法士として働き始めてもうすぐ3年の月日が経とうとしています。日々の臨床の中で患者さまから感謝の言葉をいただくと、本当に嬉しく思います。大変なこともたくさんありますが、これからも目の前の患者さまの生活を支えることができる立派な作業療法士になれるよう努力していきたいと感じています。さて、話は変わりますが、私が大学時代に生活していた群馬県のお話をしようと思います。群馬県と言えば皆さまは何を思い浮かべるでしょうか？

群馬県には草津温泉、伊香保温泉、四万温泉を含めて三名湯と呼ばれる温泉があり、私が大学生だった頃はコロナの影響で県外移動が自粛されていた中で旅行を楽しむため群馬県内の温

泉地を巡っていました。中でも私が一番紹介したいのは草津温泉です。草津温泉はなんといっても「温泉街」と「湯もみ」が魅力的です。広い温泉街では、温泉たまごやかりんとう饅頭、草津プリンなど様々なお店が並んでおり、お腹をすかせての食べ歩きが最高です。また、熱い源泉の中に約180cmの板を入れて草津節に合わせて湯をもむ「湯もみ」は迫力満点です。去年の冬には久しぶりに草津温泉に行ってきました。相変わらず観光客で賑わっており、とても楽しいひとときを過ごすことができました。大学生になったばかりの頃は群馬県のことを何も知らなかった私ですが、今では第2の故郷だと思っています。皆さまもぜひ一度、草津温泉に足を運んでみてください。群馬県の魅力を感じることができるはずです。

次のバトンは同じ職場の松田日和さんに渡したいと思います！よろしくお願いします！



富山県立中央病院

松尾 怜奈

県士会の皆様こんにちは。富山医療福祉専門学校の先輩である、佐伯絃里さんからバトンを受け継ぎ、今回のコラムを担当させていただきます。富山県立中央病院の松尾怜奈と申します。私は作業療法士になって今年で5年目を迎えますが、今年度当院の異動で精神科作業療法を担当することになり、初めてのことを多く体験した貴重な1年となりました。集団リハビリの中で患者様1人1人の特性や人となりを知り、関わることは難しいと感じる反面、精神科における面白い部分だと日々実感しています。関わり方に悩むこともありますが、優しくユニークな患者様方に助けられ、毎日楽しく過ごしています。

さて今回は、私の趣味について少しお話しさせていただきます。私は音楽鑑賞が好きで、特にライブハウスやフェスに行きパフォーマンスや歓声など、生の音を楽しむことを生き甲斐として仕事も頑張っています。数えてみると、1

ヶ月に1回ほどのペースでライブに行っていることが分かり、自分でも驚きました。フェスに行くと、音源で聴いていてもなんとも思わなかった曲が実際すごく良かったり、目当てだったアーティストよりも名前だけ知っているようなアーティストの方が想像以上に格好良くて好きになったりと、音楽の聖地は新しい出会いが多くあります。幅広いジャンルの音楽をきいてみると、そのときに自分が置かれている環境やその時の感情に寄り添ってくれる曲が必ずみつき、その存在は私にとって大変心強いものとなっています。

最後に、次は障害児入所施設・療養介護施設あゆみの郷に所属している長澤里菜さんにバトンを渡したいと思います。よろしくお願いします。



令和6年度 第7回理事会

日時：令和6年10月17日（木）19時から20時

場所：ZOOMによるオンライン会議

参加者：齋藤、桐山、渡邊、吉波、大平、塚田、水島、
中川、堀口、田中、森、能登、丁子

欠席者：小倉

《報告事項》

1. 県士会関連事業

1) 教育部

- ・MTDLP12月4日事例検討会⇒加算が取れるメリットも案内必要か
- ・臨床指導者講習会 5年目以上 現在8名⇒県士会参加人数今まで1/3
- ・12月22日 現職者選択者研修ZOOM

2) 県学会

- ・10月15日運営会議⇒18演題（内：5名新人枠）
- ・1月から事前登録
- ・学会機材について
ビデオカメラ（東海北陸で1台購入済）
パソコン（ZOOMライブ配信・演題発表で使用⇒レンタルか個人で検討）
ウェビナーの台数など確認したい
オーディオインターフェイス（3士会）⇒検討
備品・機材の一覧送付し必要なもの検討。
ウェビナーでは1会場しかZOOM配信できないため、ウェビナーもう一つ必要か検討
- ・講師懇親会⇒可能であれば会長・副会長声掛け
- ・座長に声掛けのため名簿使用（総務⇒学会長）

2. 日本作業療法士協会関連

1) 令和6年度 第2回 協会・士会委員会

- 9月21、22日 対面。塚田事務局長 東京、
21日 大平副会長、齋藤 オンライン参加

2) 第2回地域事業支援会議

- ・10月5、6日 ハイブリッド開催
- ・2名 大平副会長、水島理事、池端氏 出席

3) 保健活動を推進するための研修会

- ・10月5日 裏田氏（南砺市民病院）参加。報告書あり。

4) 災害委員会

- 9月25日 メーリング報告訓練予定（個人と施設代表が報告）。
- 個人254/682 施設109/186 合計69%
- 12月26日 災害研修 高林氏

同日 JRAT活動報告（藤井氏）

3. 富山県関連

1) 専門職協議会

- 9月29日 研修会 OT：27名
- 10月20日 科学根拠に基づく筋力トレーニング
- 11月17日 介護予防研修会

2) フレイルフェス

- OTブース23名。専門職協議会として報償費受け取り。

4. 東海北陸

1) リーダー研修会

- ・富山県より5名 11月23日 10時から16時
オンライン 運営委員は国際会議場
- ・参加費 各士会7,000円。
- ・10月18日 〆切。現在11名/35名

《検討事項》

1) 今後の県士会活動について各部会・委員会に方向性の説明や意見交換の機会を検討

- ⇒今後、各施設長・各委員長・三役で活動実態を話し合う会議を検討

◎協会の方針・士会方針の共有や意見交換をする全体会議を検討

地区会議で施設代表者会議も必要か

⇒調査部がないため調査をどうしていくか→企画調整部（委員2名）ができるか

どういう内容が必要か企画調整部に提案（理事から）→企画調整部がアンケート（フォーム）作成

例：部会や委員会が取り組んでいること、活動内容など

規模：人数など→各部会・委員会の活動を共有できる場をどうするか。

- ・今後の県士会の意識づけを 法人格として外向け）研修会→内向き

事業計画を立てるにあたって意見交換会

◎11月初旬に一度各委員長・部長できれば三役で意見交換→活動計画案提出

令和6年度 第8回理事会

日 時：令和6年11月21日（木）19時から20時

場 所：ZOOMによるオンライン会議

参加者：齋藤、桐山、渡邊、吉波、大平、塚田、水島
中川、堀口、田中、森、能登

欠席者：丁子、小倉

《報告事項》

1. 県士会関連事業

1) 教育局（能登理事）

- ・12月22日(日) 現職者研修（精神）：参加者多数
- ・12月4日(水) MTDLP事例検討：参加者少

2) 発達障害部会

- ・学校生活支援事業の報償費について

①派遣事業について

学校への報告書の作成には、当初2時間の日当で計算していたが、作成に4時間かかってしまうため、報償を4時間分としたい。

派遣費（1,000円×時間かける人数）＋報告書作成（1,000円×時間）にて承認

②講師依頼については、資料作成にかなり時間をかけているためそれに見合った報償を出したい。

時間で計算ではなく、協会の講師料を参考に支払いを検討する

3) 高齢者支援部会

- ・12月8日 岡田氏出席：昨年度の参加済みで、協会からのアンケートに返答済みでその内容を報告予定

4) 普及指導部

- ・委員会議事録確認

①体験会開催回数を減らしたい。理由が、人が少なく大変だから。

人が少なく大変だから回数を減らす理由としては、妥当ではない。広報活動として重点課題であると認識しているため、養成校と協力することで可数を減らさないように検討して下し亜。

②OTマップ、領域について：今後のやり方を検討すべきと懸念している

協会員＝士会員となった時に検討すべきだが、来年度は、ペーパーレスでおこなう。

データは、会費納入時の会計のデータを共

有するなどして負担を減らす。

- ・委託事業：介護ロボットや介護フェス、など主催者によって開催不透明だが、準備していく。フレイルフェス事業は行う予定。以上の事業に関する運営などは、福祉用具支援部会や高齢者部会などに主に運営して頂くことで普及指導部の負担を減らしていく。

5) 生活作業療法委員会

- ・11月20日 高岡地区

開催：日頃の取り組みが十分説明されていた

- ・12月10日 砺波地区

開催：今から広報活動していく。

2. 日本作業療法士協会関連

1) 令和6年度 第3回 協会・士会委員会、 ヨンパチ委員会

11月23日(土) オンライン開催。

齋藤、桐山、大平、塚田出席：3役が参加

内容：5歳児健診の参画、協会員

＝県士会員が議題

3. 富山県関連

1) 専門職協議会

11月17日 介護予防に関する研修会

- ・OTトピックス有り：山口先生（認知症の講演）、南砺市民、裏田先生の発表

4. 東海北陸

1) リーダー研修会（堀口理事）：準備進んでいる

- ・富山県より5名 11月23日 10時から16時
オンライン 運営委員は国際会議場
- ・富山県より。角畑、南、中岡、上田、池端
…参加依頼発送済み
- ・全県士会から入金済み
- ・HPに会長挨拶載せる。

《検討事項》

1) 県学会（運営委員より）

(1) 配布物について

- ・発送予定の部署はない
- ・事前登録や学会案内を今年度中に発送予定

(2) 運営委員、講師の参加費

原則徴収する。学会日は一律支払っていただき、日当を支払うことで学会費に当てて頂く。

生涯教育ポイントおよび聴講者、事業収支等

他の学会、これまでの県学会でも、作業療法

士および規定に該当する場合は参加者として徴収。…承認

(3) ZOOM契約内容

1 アカウントか。2 会場同時使用可能か。
…不可。

オプションで1ヵ月のみ、追加でアカウント購入

(4) 講師の会社の二次元コード掲載について

抄録内でも可能か、広告出してもらうか
：OT学会では、掲載有り。士会も準ずる。

(5) 学会の位置づけ

独立したものではなく、理事会に直結したもの。予算、補填は士会費から支出。

地区の繋がり、次世代の育成。

：県士会に属したものとして考える。

2) 事業計画案

別紙参照。各部、委員会から来年度の活動報告あり。

3) 事務局長からの連絡、検討の方法について

検討事項、連絡などは、事前確認。

令和6年度 第9回理事会

日 時：令和6年12月19日(木) 19時から20時30分

場 所：ZOOMによるオンライン会議

参加者：齋藤、桐山、渡邊、吉波、塚田、小倉、水島、堀口、丁子、田中、森、能登、中川、丁子(書記)

欠席者：大平

《報告事項》

1. 県士会関連事業

1) 教育局(能登理事)

11月22日 現職者研修

12月4日 MTDLP事例検討会

1月12日 障害教育推進会議(森さん出席、能登理事、出席)。日当の支払い 要確認

2月21日(土)：現職者共通研修(事例検討会)予定。

2) 生活作業療法委員会(水島)

・12月3日 東海北陸Cブロック会議(水島理事、池端さん 出席)

重点課題を見据えての事業会議の報告済み。

各県の地域における実績の確認→どの県も把

握できていない。

大平さんの方で実績集めについて要検討。

会長の方でも考えておく。

・12月10日 生活作業療法委員会(砺波地区)開催

3) 精神部会

12月11日：MTDLP研修会(森部長出席)

：参加者 約20名

精神分野で使用しにくいという意見→できるところから導入。

MTDLPの使用を進めていく。

2. 日本作業療法士協会関連

1) よんばち

・11月23日 3役出席。

報告書：桐山理事より周知(別紙参照)。

5歳児検診が主。検診事業にバイトで関与している)。

アンケートの集計がうまくまとめられていない→今後要検討。

次回3月8日実施予定。

2) 令和7年度参議院選挙について

・田中まさし氏 全国後援会について(メール参照)の対応について協会より、各県士会ごとに後援会加

入のお知らせあり。

会長より資料配布済み。

LINEグループは、PT中心に立ち上げてあるため、そちらを活用してもらう

3. 富山県関連

1) 富山県健康課ヒアリング

・生活期のリハビリテーションについてヒアリング12月23日 会長より現状と課題を報告予定。

生活リハの課題について意見があれば、メールで会長まで。

4. 東海北陸

1) リーダー研修会(堀口理事)

・富山県より5名 11月23日 10時から16時 オンライン 運営委員は国際会議場

報告済み(添付資料参照)。

・富山県士会から、角畑氏、南氏、中岡氏、指田氏、池端氏

＜検討事項＞

1) 県学会

(1) 準備金について

・別紙参照

森監事：2月23日9時からアイザックにて開催

福祉機器の体験、教育講座（担当：森監事）、災害体験報告、県士会活動の報告等

・金銭面：県士会 借入金70万、広告10万（運営委員として 収入80万あり）

支出費：印刷費、日当・交通費等を含めると、120万の支出予定。

事前登録制導入済み（学会終了後の5日後に支払いのため、一時的に40万円の差額を県士会の方で、借りられないか？

（参加費：一律3000円、運営委員も含む。収入は200名×3000円を予定）

→理事メールで承認後、→不足している予算は補正予算を提出要求

・前日に懇親会あり。

・機材関係：角畑さんが塚田理事に相談。

2) 事業計画案

・委員会・部局でカメラの使用希望がなかったため、カメラは学会物品として管理

3) 高岡地区介護認定審査委員

・本郷氏、大野氏が任期満了で退任（他 高林氏、森氏、佐賀氏）

次期候補を2名選出必要であり、3役にて高岡地区を中心に選出→会長より意向を確認（もし不可だった場合、25日あたりまでに候補者を検討）。

4) 次年度の総会会場予約について

早めに会場を抑える必要あり。富山市の会場は費用が高い。6～7箇所 打診済み（吉波理事）。滑川交流プラザ：予約可能。

6ヶ月前から予約できる。

県民会館：空いていたが、費用が高い、駐車場も料金かかる。

高岡ふれあい福祉センター：

費用は安いが開催地の問題あり。

森監事確認予定。

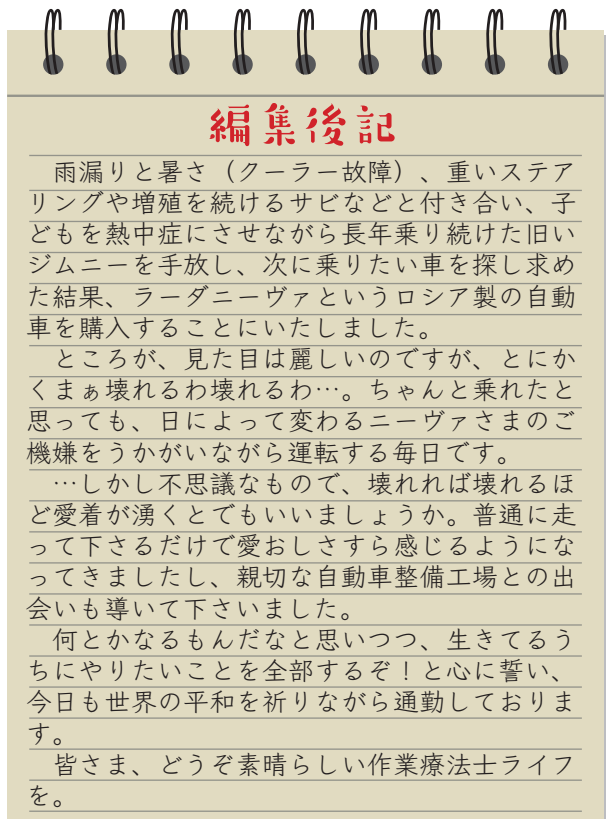
5) 部員の配置替え

竹内さん（青池学園）MTDLPの指導者あり、推進委員へ異動。

今後、所属委員会などの異動は、両部長同士で相談

■ 会員異動等

種別	氏名	旧所属	新(現)所属	備考
異動	荒木 凌	アルペンリハビリテーション病院	駅南あずさ病院	
異動	加藤 正義	白石整形外科医院	いとう整形外科クリニック	
改姓	村尾 有紀子			旧姓 稲垣
退会	柿岡 美紅	流杉病院		
退会	高山 愛	社会福祉法人 セーナー苑		
退会	本郷 朋子	横田記念病院		



編集後記

雨漏りと暑さ（クーラー故障）、重いステアリングや増殖を続けるサビなどと付き合い、子どもを熱中症にさせながら長年乗り続けた古いジムニーを手放し、次に乗りたい車を探し求めた結果、ラーダニーヴァというロシア製の自動車を購入することにいたしました。

ところが、見た目は美しいのですが、とにかく壊れるわ壊れるわ…。ちゃんと乗れたと思っても、日によって変わるニーヴァさまのご機嫌のうかがいながら運転する毎日です。

…しかし不思議なもので、壊れれば壊れるほど愛着が湧くとでもいいでしょうか。普通に走って下さるだけで愛おしさすら感じるようになってきましたし、親切的な自動車整備工場との出会いも導いて下さいました。

何とかなるもんだなと思いつつ、生きてるうちにやりたいことを全部するぞ！と心に誓い、今日も世界の平和を祈りながら通勤しております。

皆さま、どうぞ素晴らしい作業療法士ライフを。

賛助会員名簿

（順不同）

会 員 名（代表者）	住 所
学校法人金城学園 金城大学 （学長 米島 學）	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL 076-276-4400 担当（総務企画課）
株式会社 富山県義肢製作所 （代表取締役 森田 忠浩）	〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16 TEL 076-425-4279
富山リハビリテーション 医療福祉大学校 （理事長 青池 浩生）	〒930-0083 富山市総曲輪4丁目 4番5号 TEL 076-491-1177
ライフ・クリエイト株式会社 （代表取締役 北野 満）	〒932-0814 小矢部市赤倉207 リハビリ・デイサービスおやべ TEL 0766-67-2001
医療法人社団桑山会 丹保病院 （病院長 丹保 仁）	〒933-0918 高岡市大坪町1-1-3 TEL 0766-22-3719 山本 様

一般社団法人 富山県作業療法士会より

メーリングリスト登録のお願い

現在、メールを通じて、ホームページや施設宛での発送以外に多くの情報を配信しています。
これまでに、多くの会員の方に登録していただきました。
登録がお済でない方は、登録をお願いします。

■対象

一般社団法人 富山県作業療法士会会員

■配信内容

- 協会や県士会が主催する研修会の開催や変更に関するお知らせ
- 作業療法に関する情報（制度改定や最新情報等）
- 災害時の緊急連絡や情報提供
- 協会や県士会からの事務的な連絡
- その他作業療法に有用な情報 等



富山県作業療法士会
会員ML(メーリングリスト)登録
<https://forms.gle/o9XmsZc8cK7yyG8XA>

